

F-27 週休之日別が家庭生活に及ぼす影響 (2) — 家庭経済

岐阜大教育 〇堀田剛吉 静岡大教育 村尾勇之 福山女大家政 山口久子
金城学院大短大 生川浩子 金城学院大家政 今井光映

目的：勤労者の週休形態が家庭経済に及ぼす影響を分析し、それを通して週休増に
対応する家庭生活のあり方を考察した。

方法：総括的科学研究の方法については、巻表(1)で論じたこととてあるが、家庭
経済については、週休タイプ別に家計収入、家計支出を専ら調査により、夫の小遣い
については夫の調査により把握した。調査期間は、昭和49年度1年間である。しかも
週休変化に対応する経済生活の変化を動態的にみるため、夫と専ら意向調査もあわ
せておいた。

結果：週休之日のAタイプは、収入金額もやや高いし、定期的収入の *weight* が高い
。ついでBタイプが多い。すなわち2日別は勤労者の収入条件にあぐまに取場に入っ
てくるためと思われる。

次に家計支出面では、Aタイプで構成比・金額とも多いのは自動車費で、消費単位
で比較して夫と副食費・交際費への支出が多い。しかしBタイプでは、旅行費・嗜好
品費・家族小遣いなどが多い。この両タイプは比較的類似性もあるが、とくにBタ
イプにお金をかけて余暇をたのしむ傾向がある。また週休増加により、今後増加させ
たいと考える費目は、一般に教養費、教育費、旅行費などである。しかし現在週休を
つかって収入増加を考えた傾向はいつれも弱い。